

技術・家庭科学習指導案

平成30年8月31日(金) 第1校時 パソコン室

授業学級 1年E組(40名)

授業者 指導教諭

1 題材名 「附属長野中紹介CMを作ろう！」

2 題材設定の理由

1年E組の生徒は、情報に関する技術の学習において、デジタル作品の設計・制作を通じて、情報に関する技術の適切な判断・活用を目指してきた。その中で、情報に関するメディアの特徴や利用方法を知り、著作権や相手に伝わるデザイン、色合いに着目した上で、広告などの一つのメディアを設計し、制作する姿が見られている。一方で、Wordを用いた紙媒体のメディアの制作は経験しているが、コマーシャル(※以後CMで表記)などの映像媒体のメディアに関しては触れておらず、一つのCMないしは動画が世間に与える影響力や動画編集の技能の習得、人権や差別的表現などの情報モラルに関する知識などが曖昧な生徒の姿が見られている。

そこで、デジタル化された静止画を用いて、動画編集ソフト「ムービーメーカー」で動画編集の基本的技能を学ぶ学習を位置付ける。その際、実際に放映されているCMなどを例に取り、CMが私達の生活にどう影響を及ぼしているのか思考し、作った動画が人権、差別的表現などの情報モラルに配慮されて作られているか判断し、修正することができることを目指して学習を展開していく。静止画は、学校生活に関する写真をiPadで撮影してもらい、その写真を「ムービーメーカー」というソフトを用いて20秒間の動画を制作してもらおう。制作過程の中で、CM制作のポイント「どこで・誰に・何を」について触れ、「ムービーメーカー」の基本的操作を通じて動画編集の基本的知識および技能を身に付ける。また、完成した動画を用いて、その動画が人権、差別的表現などの情報モラルに配慮されているか判断し修正できるように、あらかじめ制作した情報モラルなどの反したCMを見せ、CMの問題点と改善点を見付けだす活動を取り入れる。

これらのことから、生徒は動画の設計から制作までの動画編集の基本的知識および技能を身につけることができると考えた。また、情報モラルに配慮した動画修正の活動を通して動画制作の楽しさや世の中に流れているCMなどの映像メディアの素晴らしさについて学ぶことができると考え、本題材を設定した。

3 題材の目標

- ① 動画を見て、問題点と改善点を見つけ出すことができる。(関心・意欲・態度)
- ② 自分たちの動画は問題点に該当しているか判断することができる。(思考・判断)
- ③ 動画編集ソフトを用いて動画を作成することができる。(技能)
- ④ 活動を通して、世の中に流れている映像を評価することができる。(知識・理解)

4 題材展開

全9時間扱い 本時は第2時

時間	学習内容	教師の指導・助言
1	どんなCMにしたいのか、構想をグループで考える。	世の中に流れているCMをいくつか参考に見せ、学校をテーマに単元の学習問題を設定する。
2	各グループの構想の発表。	各グループの構想を発表させ、構想について再検討する活動を設け、構想内容をより充実させる。
3	CMの構想が決まったら制作に必要な画像を撮影しに行く。	写真撮影の際に気を付けなければならないポイントを撮影前に確認させる。
4	ムービーメーカーの操作説明。こちらが準備した画像を使って製作前の準備として様々な機能に触れる。	初めてソフトに触れる生徒に向けて基本的操作を最初に時間をかけて説明を行う。その際、実際にソフトを生徒が操作しながら活動前の準備をする。
5	ムービーメーカーを使った動画制作をする。	グループ全員が活動に取り組み、パソコンに触れずに授業を終える子がいないように指導を心がける。
6		前時に困ったことや上手くいかなかったことを聞き、必要に応じて全体指導を行う。
7	視聴した動画から問題点と改善点を挙げ、それに基づき情報モラル等を意識した動画修正を行う。	出された問題点が自分たちの動画にあるかどうか修正できているかどうか机間指導を行う。
8	情報モラル等を意識した動画修正・完成	情報モラル等に意識し、誰もが見て分かるCMになれているかのグループで話し合う場を設ける。
9	まとめ	完成した動画や工夫点などを発表する場を設ける。ワークシートを用いて本単元の振り返りをしてもらう。

5 教材化

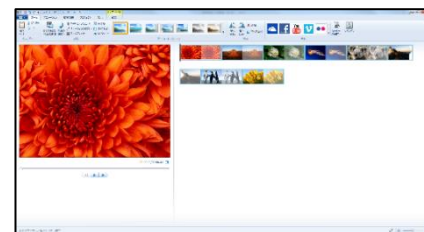
①附属長野中紹介CMの制作

世の中には、インターネット、TV、ラジオ、新聞など、多種多様な情報に溢れている。そして、私達は多くの情報とともに生活し、情報を持っている。生徒たちは、そのような膨大な情報が錯綜する中で、正しい情報を取捨選択したり、情報を世の中に自ら発信したりする力を身につけていかなければならない。



多くの情報の一つにCMがある。CMというのは普段TVを見る中で、私達が一番多く目している情報であり、様々な技術を使い、伝えたいことを端的かつ効果的な映像にして情報を伝えている。

本題材「附属長野中紹介CM」を制作することは、子どもたちにとって身近な「学校生活」をテーマに扱うことで普段の生活の中で体験している情報を伝えることができる。また、人々とその内容について情報の正確さを検証しながら、情報を選び出していくことに繋がる。



このようなことを通して、相手に伝えたい情報を端的にかつ効果的に伝える力を身につけることができる。また、制作を進めていく中で、「どこで・誰に・どのようなことを」という世の中で使われている情報発信の基礎的な技術を身につけることができると考えた。このような力を育てながら、ムービーメーカーを使ったCM制作という活動を通して情報発信をする技術的能力を育てることをねらう。

6 本時案

① 主眼

附属長野中CMの構想を考える場面で、CM制作のポイントの「どのようなことを」に着目して、グループの構想を全体で聞き合う活動を通して、他グループの発表を受け、自分たちの構想を再度検討することができる。

② 本時の評価規準

他グループの発表を受けて自分たちの構想を再度検討することができる。

③ 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応(太字はキーワード)	◆学習内容 ◇教師の指導・援助	時間	備考
導 入 展 開	1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を設定する。	学習問題：附属長野中のCMはどのようなものがよいだろうか。		15分	構想シート パソコン
		<p>ア CM制作で大事なものは「どこで・誰に・何を」の三つだって前回やったな。そして、今日は構想を発表するんだ。</p> <p>イ 「何を」伝えたいのかが一番大事だったからそこに注目して他グループの構想を聞いていきたい。</p>	<p>◆前時でやった「どこで・誰に・どのようなことを」が定着しているか確認する。</p> <p>◆グループごとに構想を発表する前に教師が例として発表する。</p> <p>◇「どのようなことを」を意識して発表を聞く。生徒の言葉から出たものを学習課題として提示する。</p>		
展 開	2 他グループの発表を通して自分たちの構想を再検討する。	<p>ウ 私達の構想は三つのポイントを押さえてできている。</p> <p>エ ○班みたいに分かりやすい構想にしたい。おもしろいものを作りたい。</p> <p>オ 自分たちの構想はCMを制作するのにまだまだ不十分だ。だから再度検討したい。</p> <p>カ こんな構想の分かりやすい構想を考えてみたい。</p> <p>キ 文字をしたからではなく、横から出す感じにしてスターウォーズみたいにしたいよね。</p> <p>ク 教室で皆が歌っている写真が使いたい。</p> <p>ケ 皆の笑顔を画面いっぱいに出したいな。写真を加工することはできるのかな。</p> <p>コ 決めセリフみたいなものを入れたいな。ナレーションは吹き込めるのかな。</p>	<p>◆発表を聞きながら、他グループの良かった点などをメモしているグループに着目して次の検討する活動のポイントとして全体に様子を伝える。</p> <p>◆教師が更に詳しく構想したシートを提示する。</p> <p>◆発表を受け、グループで再び構想を検討する活動に入る。</p> <p>◇構想を練る中で、やりたい効果や機能がある場合はこまめな机間指導を行う。</p> <p>◇机間指導をする中で、同じような質問や機能・効果の説明が見受けられ場合、いったん作業を中断し、全体指導へと切り替える。</p> <p>◇時間に限りがあるため、どこまでの機能や効果、子どもたちのやりたいことをどこまで許容するか事前に教師の中で決めておく。</p>	25分	ワークシート 構想シート
	3 本時の振り返りをし、次時の見通しをもつ。	<p>サ 今回、グループの構想の発表を聞いて参考にした部分があった。より具体的な構想を作ることができた。</p> <p>シ 前回よりもより細かいところを意識した構想を作ることができた。早く映像を作りたい。</p>	<p>◆本時の振り返りや活動を通して気付いたことをワークシートに記入。何人かに発表してもらおう。</p> <p>◇次時でCM制作に必要な写真を撮り、制作に必要な素材を集める活動をすることを予告する。</p>	10分	ワークシート
まとめ					